

四季折々の 花を詠う

第二回「十湖賞」俳句大会 入選句集



〈発行元〉 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会
〈事務局〉 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20-3

TEL 053-424-0113 FAX 053-424-0130

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

十湖と東区俳句の里づくりについて

松島十湖は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家。さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は七千とも言われ、全国各地に多くの門人がいたとされます。

東区ではこうした十湖の遺徳を称えるとともに「土の詩人」として生きた十湖の心を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

元来、東区内には句碑群が残存しており、同時にまた多くの俳人をも輩出し、俳句のまちとしての側面を垣間見ることができます。

東区及び実行委員会では、このような背景のもと、「東区俳句の里づくり事業」を行っております。



第二回「十湖賞」俳句大会 入選句集

「俳句のこころ」をテーマにした句集の発行を希望する中、「十湖賞」の発行も検討されています。十湖賞は八湖賞や十湖賞の発行が目的で、文部科学省の補助金を活用して発行されています。また、今回の第二回俳句大会は、「四季の光」をテーマに、全国各地から作品が寄せられ、また、今回の第二回俳句大会は、「四季の光」をテーマに、全国各地から六千七百二十八句もの作品が寄せられました。これは、非常に多い数字です。終わりに、募集句のご選考をいたすにあたり、誠にありがとうございました。於 浜松市東区役所会議室

ごあいさつ	2・3
大会要項・投句実績	4
十湖大賞	5
十湖賞	6
区長賞・教育長賞	7
特選	8
佳作	9・10
努力賞	11・12
あとがき	13

委員長 松島 知次

第二回「十湖賞」俳句大会には第一回以上に多数の俳句が全国から寄せられ、投句された方々にお礼を申し上げますとともに、主催者として心から喜んでおります。

今回は小・中学生からも多数の応募がありました。こうした機会が、子供たちの国語や自然への興味を高めてくれるのではないかと願っているところです。

この俳句大会は、郷土の俳人であり篤志家であった松島十湖の冠を戴いております。十湖は一八四九年生まれですので、今年は生誕百六十年にあたります。当地には多数の句碑や石像が残されていますが、十湖の尽力によるものが多く、文化の歴史への思いを巡らしてくれます。

終わりに、表彰された方々への感謝とお喜びを申し上げます。

浜松市東区長 鈴木 将史

東区は、浜松市の東の玄関口にあり、交通の要衝として発展してまいりました。区内には、東海道をはじめとする歴史街道や全国的にも珍しい句碑群があり、俳句に縁が深い地域であります。そこで、東区を「俳句の里」と位置付けて、伝統と文化の漂うまちづくりを推進しているところであります。

さて、本賞は、明治・大正時代に「偉大なる土の詩人」として活躍しました松島十湖の功績を讃えるとともに、俳句にゆかりの深い東区の特長を活かし、平成二十年から俳句大会を実施しております。第一回俳句大会は、「家族」を句題に、全国各地から四千五百十一句の作品が寄せられ、また、今回の第二回俳句大会は、「四季の花」を句題に、前回を上回る六千七百二十八句もの作品が寄せられましたことは、非常に喜ばしいことであります。

終わりに、募集句のご選考をいただきました選者の方々には、心から敬意を表しますとともに、ご応募いただいた皆様に深く感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。

十湖大賞

【一般の部】

はるかより波あらはれて椿落つ

埼玉県 鈴木 一郎

【評】

波が立ちあがってきたこと、椿が落ちたこととは、何の因果関係もありません。そこを結び付けることで、自然の運行の不思議を感じさせています。遠近の対比の鮮やかさのみならず、波の白さと椿の赤さの対照も印象的です。(高柳克弘)

第2回「十湖賞」俳句大会

◆句題 「四季の花」

今年の句題は四季折々に咲き誇る「花」。心なごみ、胸に残る、あなたの一句をお待ちいたします。

◆応募方法 専用の投句用紙、または郵便ハガキ・封書・FAX・Eメールにて受付。応募の際は、郵便番号・住所・電話番号・氏名・学校名・学年を記入のこと。

※ご応募いただきました個人情報は、入賞された方へのご連絡のために利用します。なお、入賞された方につきましては、今後作成する配布物において、作品とともに、お名前を掲載し公表させていただきますのであらかじめご了承ください。

※未発表の作品に限ります。

◆応募作品数 二句一組（ただし二組まで）または一句でも可

◆応募区分 ●小学生の部（浜松市内の小・中学生を対象とします）
●中学生の部
●一般の部（句歴3年以上の方）
●一般初心者の部（高校生以上）

◆投句料 無料

◆応募先 〒435-8686
お問い合わせ 浜松市東区流通元町 20-3
浜松市東区役所「十湖賞」俳句大会係
(TEL) 053-424-0113 (FAX) 053-424-0130
(Eメール) e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

◆応募締切 平成21年8月19日(水)
東区は8月19日が「はいく」の日!

◆表彰式 平成21年11月8日(日)
入選句発表

◆選者 九鬼あきゑ（俳誌「権」主宰）
笹瀬節子（俳誌「みづらみ」主宰）
鈴木裕之（俳誌「海坂」編集長）
高柳克弘（俳誌「鷹」編集長） 五十音順

◆賞 ●十湖大賞 1句（賞状・賞品）
各部門ごとに
●十湖賞 1句（賞状・賞品）
●教育長賞（小・中学生の部）1句（賞状・賞品）
●区長賞（一般・初心者の部）1句（賞状・賞品）
●特選 2句（賞状・賞品）
●佳作 6句（賞状・賞品）

※十湖賞受賞作品の中から「十湖大賞」を選出します。

◆主催/浜松市東区、東区俳句の里づくり事業実行委員会 ◆協力/浜松文芸館
◆後援/浜松市教育委員会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、NHK浜松支局、テレビ静岡、あさひテレビ、静岡第一テレビ、静岡エフエム放送、浜松エフエム放送

第2回「十湖賞」俳句大会 投句実績

一般の部		一般初心者の部		中学生の部		小学生の部		全体	
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数
464	1,383	203	578	1,217	2,250	1,053	2,517	2,937	6,728

一般の部・地域別		一般初心者の部・地域別		一般初心者の部（高校生）		
地域	投句数	地域	投句数	区別	人数	投句数
市内	655	市内	494	一般	172	496
県内(浜松市外)	114	県内(浜松市外)	35	高校生	31	82
県外	614	県外	49	合計	203	578
合計	1,383	合計	578			

十湖賞

〔一般初心者部〕

向日葵や画家の狂気をほしのまま

鹿児島県

竹内

功

評

「向日葵」と言うのと、誰もが後期印象派を代表する画家ゴッホを思い出す。あの強烈な色彩と激情的筆致の絵を思い出す。この句の眼目は「狂気をほしのまま」である。正にゴッホの生涯そのもの。説得力のある句だ。(九鬼あきる)

〔中学生部〕

夜桜が家出の僕を帰らせる

中郡中二年

名倉

敏貴

評

「夜桜」に家出をとどまったというのである。それ程「夜桜」の句うような美しさに日本人の心を取り戻した。中七から下五に中学生らしい覚悟が好感をよぶ。桜は日本の国花であり、「花」といえば桜をさす。(笹瀬節子)

〔小学生部〕

水星に青いタンポポがあるのかな

豊西小五年

鈴木

聖也

評

太陽系にタンポポの存在を見つけようとした時、水星が最もふさわしい。太陽に近く、短時間しか見えないと言う。この水星への憧れは純粹で、青いタンポポがやはり咲いているのだらうと信じたくなる。(鈴木裕之)

区長賞

〔一般部〕

トラックに母の日の花爆走す

新潟県

美濃部紘三

日本橋大

〔一般初心者部〕

波白しハマヒルガオの横をゆく

浜松市北区

小林

未紅

教育長賞

〔中学生部〕

土筆いま我は我はと顔を出す

天竜中二年

佐藤

祐也

〔小学生部〕

ひまわりがぼくの頭に種落とす

有玉小五年

渡邊

一樹



特選

【一般の部】

蒲公英やゆったり育つ三人目

鈴木ふみ子
笠井中三年

桔梗の折り目正しき五瓣かな

堀田 敏男
中郡中三年

【中学生の部】

白球が飛び交う土につくし咲く

鈴木 隆仁

一面に秋桜烟花の海

高林 佑衣



【一般初心者の部】

百日紅阿鼻叫喚の空爆日

阿垣 映子
浜松市天竜区

夕やみのハイビスカスと波の音

竹地 悠紀
浜松市北区

【小学生の部】

ひまわりの日に向く顔が急いでる

石本 剛大
赤佐小六年

椿がねきれいにさいたよお父さん

菊地 亮太
中ノ町小六年

佳作

【一般の部】

ちるさくら象のしっぽのゆれにけり

喜龍 けん
滋賀県

沙羅の花拾へば風の静かなる

齊藤あい子
浜松市南区

紫陽花のはじめの色を活けにけり

中川 徳子
神奈川県

戦争の色は何色薔薇の花

袴田八重子
浜松市南区

雁来紅マリーローランサンの色

平野 道子
浜松市東区

花茄子や父の日記に余白なし

虫生美代子
磐田市

【一般初心者の部】

誉め上手バラの館の昼下が

大隅 敏子
浜松市東区

乗り継ぎて小さな駅舎蕎麦の花

川瀬 慶子
浜松市西区

おさな児の鼻につけたる灸花

高橋 正代
浜松市北区

百万本一人占めして薔薇の園

中安 良江
浜松市浜北区

父母は今は仲よき余花の雨

藤原 公子
東京都

背伸びして青空探すたちあおい

牧野 恭子
浜松市東区

佳作

【中学生の部】

ちくちくとみんなの視線バラの花

中郡 池川 恵莉

大家族白き綿毛が飛ぶ日なり

中郡 小杉 拓生

俺の打球桜吹雪の中を行く

中郡 墨岡 伸浩

親友とほおつと見つめる藤の花

天竜 手繰 夢香

朝顔の横顔につく涙かな

笠井 村松 星彦

ハルジオン白いまんまに揺れていた

笠井 守屋 裕貴

【小学生の部】

むらさきのほのおのようなラベンダー

有玉 池口 紗映

アサガオは青い地球の宝物

有玉 磯野 佑太

雨の日はくつしたぬれるはすの花

豊西 川口 実悠

朝顔のむらさきがすき赤もすき

和田 桜井 佳子

ひまわりの花の数だけ夢がある

笠井 滝 順平

あじさいは色とりどりのパレットだ

与進 中村 優介



努力賞

【中学生の部】

猫の手にたたかれはじける鳳仙花

中郡 伊藤 織江

たんぽぽの綿毛が散っておやばなれ

天竜 大橋 実咲

たんぽぽを旅に出そうと息をふく

積志 岡田 紗佑里

遠くから小さく笑う藤の花

中郡 河口 萌

屈強なたんぽぽの根よ伸び進め

天竜 河島 あす美

アサガオの自由研究あと少し

中郡 志村 育美

夢二つ蒲公英わたげにのせてゆく

中郡 辻村 晃衣

たんぽぽの隣であむあむもち一個

天竜 本間 実季

ゆううつな雨のむこうの青あじさい

天竜 耳塚 里沙

生きたいと小さなスマイレ根をはつて

中郡 森田 郁未

努力賞

【小学生の部】

たんぼぼはなんともふまれ強くなる

豊西小三年
井口 雄登

朝顔の花の中からありの顔

積志小三年
石田 花凜

たんぼぼがふわふわわり親ばなれ

有玉小五年
伊藤 真愛

ひまわりのまん中たねがいっぱいだ

豊西小二年
岡本 陸

ねぎぼうずなまえはぼうずでもアフロ

積志小六年
小野 航輝

ひまわりはのびていくとき笑うんだ

積志小六年
松浦 里奈

すいせんは銀河みたいに美しい

蒲小六年
松本 旬平

かくれんぼヒマワリの中にげきるぞ

笠井小六年
森川 葉月

ひまわりが大きくのびて花のシャワー

与進小六年
山田 悠太



注

向日葵 ひまわり
土筆 つくし

蒲公英 たんぼぼ
桔梗 きちこう

百日紅 ひゃくじつこう
秋桜 こすもす

紫陽花 あじさい
雁来紅 がんらいこう

蕎麦 そば
灸花 やいとほな

あとがき

第二回「十湖賞」俳句大会は、全国各地から六千七百二十八句もの多くの作品が寄せられました。特に本年は小・中学校の児童・生徒の方々からの応募が多く、こうした若い人たちの俳句創作への参加はややもすると中高年に片寄りがちな俳句の現状にあって、大いに喜ばしい限りです。

本句集は「十湖大賞」をはじめとした入選句集ですが、惜しくも選にもれた多くの句の中にも優れた作品が多く見受けられ、次への挑戦に期待したいと思います。

最後に投句頂いた皆様、選考にご尽力を頂いた選者の先生方にはこの場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会